

# Art Truck Project News

\* アートトラック・プロジェクトニュース July 2013

VOL.2

## だんだんボックス

<http://www.dandanbox.com>



だんだんボックスとは、障がいがありながらも素晴らしい才能を持つアーティストの作品を、さまざまな商品にデザインして販売し、その売上げの一部をアーティストや福祉施設へ、作品提供の報酬として還元する仕組みです。

地元の企業が支援することで、障がい者の方々が仕事を、生きがいを、社会参加できるように。そんな「やさしさのネットワーク」が全国に広がっていくことを願っています。



「夕日」 室屋裕太 (鹿児島在住)



「フラミンゴ」 浅葉美花 (Studio Ashi)\*



「コーヒ-焙煎機」 井上由美 (Studio Ashi)\*

\* 社会福祉法人 葦の家福祉会 生活介護事業 葦の家 Studio Ashi

## 当たり前って何ですか？

### 役員の声



(左側) 創業者 (故) 富永シヅ代表と共に！  
株式会社 福岡運輸ホールディングス  
相談役 織方定憲

入社5年目の春、ある人と話しているときに「当たり前って、とても有難いことですね。」と言ったら、「当たり前って何ですか？」と問い返されました。「例えば普通に歩いて、普通に生きて、普通に考えて、普通に思う、そんな当然なことが普通にやれるということでしょうか。」と答えました。すると「当然とか普通とかは、どうやって決めるのですか。常識とか非常識とかもそうですよ。それはあくまであなたの判断でしょう。」と言われました。そして続けて、「ものさしは決して一つではありません。当たり前とか、当たり前でないとか、周りのことばかりを気にせずに、何故もっと自分の役割を果たし、自分を高める努力をしないのですか。人は皆、可能性もっています。」と諭されました。ご教示戴いたのは、当時の富永シヅ社長です。

このことが契機となり、私はそれから直ぐに車の免許を取ろうと考えました。それまでは、足が不自由な自分が、よもや車を運転できるとは、露ほども思っていませんでした。お陰様で行動範囲が拡がり、一気に世界が大きくなりました。

創業者が、冷蔵庫を乗せたトラックを走らせようと考えられたのは、まさに当たり前とか常識とかを超越し、可能性を追求する発想から生まれたものでしょう。

世に言う天才的な科学者とか芸術家の中には、こういった考え方や才能を持っている人が多いと思います。一例ですが、アインシュタインは発達障害だったという説があります。機能が一部劣っていると見られる人は、他の機能がこれを補完して、それが天賦の才能にまで高められる場合があるとされます。エジソンやモーツァルトもそうだったのかもしれませんが、真偽の程はわかりませんが、十分に有り得ることだと思います。

国産第一号の冷凍車を走らせた我が社です。今般、その我が社のトラックのボディが、素晴らしいキャンバスとして彩られ、福岡の街中を走駆することは、創業者の夢をまた未来に繋ぐことなのでしょう。

## 社員の声



福岡運輸株式会社 営業部  
営業主任 高田明宏

### ・アートトラックの取り組みについて、創刊号を見ての感想

CSR活動としてのアートトラック・プロジェクト、素晴らしい作品に仕上がる事を期待しています。営業先で会社案内をする話題が一つ増えたと共にアートトラックを社外に発信する事で、少しでもだんだんボックス様への支援の輪が広がる事を願っています。早速、京橋郵便局で段ボールを購入しました。自宅に持ち帰ったら速攻で子供の玩具入れに・・・。  
白石さん・室屋さん・宮本さん頑張ってください！

### ・趣味について

趣味をずっと探しております。  
最近ハマっているのはストレス解消？で運動すること  
(数か月に1回のゴルフ、週2回のスポーツジム等)とNHK朝ドラ“あまちゃん”。



福岡運輸株式会社 業務推進部  
業務課主任 江藤瑠美

### ・アートトラックの取り組みについて、創刊号を見ての感想

だんだんボックスのような取り組みがあることをアートトラック・プロジェクトで初めて知りました。アートトラックが街中を走ることでだんだんボックス様の取り組みに関心を持つ人が増えたら、障がい者の方々との関係が少しずつ増えていくのではないかと思います。アーティストの方たちの温かい絵が街中に溢れてその絵で皆が優しい気持ちになれば、そしてそのことで障がいを持った人たちが経済的に自立でき生きがいをもって暮らしていける、そんな素敵な社会のきっかけにアートトラックがなったらいいなと思います。

### ・趣味について

小学生から高校生になるまでやっていた茶道を5年前に再開しました。15年近くブランクがありましたが、いざやってみると意外とからだは動いて覚えていることに驚きました。また、山登りも始めましたが妊娠したので今は茶道も山登りもお休み中です。どちらも、日常から離れてリフレッシュできるので、自分のペースで長く続けていけたらと思います。



福岡運輸株式会社 福岡支店  
営業チーム 池田康憲

### ・アートトラックの取り組みについて、創刊号を見ての感想

学生の時、背振にある板谷学園を訪問し、生徒さんの絵画制作の様々を見学させて頂いたことがあります。私たちには無い、鋭い感性を持った作品の数々を拝見し、非常に心を打たれた事を思い出します。隠れていた才能を発掘する良い機会だと思いますので、これからもっと普及することを希望します。

### ・趣味について

読書、ドライブ。史跡、旧跡、神社仏閣を巡り、昔の人々に思いを馳せる。

## 編集局だより



福岡運輸株式会社 福岡支店  
業務係 室屋友則

この2号が発刊されている頃には、梅雨が明けているのでしょうか。梅雨が明けるといよいよ夏本番です。私は、夏生まれなので夏が大好きです。

さて、10月のお披露目に向けてアートプロジェクトも、これから絵の選定など具体的な内容を決めていきます。アートトラックを見た人達が楽しんでくれるように、こちらも力を入れて気張ります。トラックを見て子供たちが、手を振ってくれたりしたらとても嬉しいです。

話は変わりますが、前のページの絵は私の弟が描いた絵で、平成22年度鹿児島県の県美展に入選した作品です。弟は未熟児で生まれ、脳性まひと診断され、歩くこともできないかもしれないと言われていましたが、両親の努力によって今では仕事に行き、車を運転して友達と遊びに行っているようです。

弟に言われて嬉しかったのが、兄ちゃんたちが楽しそうに絵を描いているのを見て、自分も絵を描くのが好きになったという言葉でした。絵は、描いた人の心を写す鏡だと思います。描いた人の想いが、見た人に伝わるように、描いた人も見た人も良かったと思ってもらえるように願うばかりです。アートトラックプロジェクトの応援よろしくをお願いします。